

共に学ぶ

学校支援ボランティアセンター (SSVC)

第36号 (年2回発行)

狭山市学校支援ボランティアセンター
＜事務所＞

狭山市狭山台1-21

狭山元気プラザ内A棟3F

☎/Fax 04-2927-1395

E-mail: sayama-ssvc@bd.wakwak.com

電話受付: 月・水・金曜日午後1時～4時迄

「共に学ぶ」36号の発刊に寄せて

狭山市教育委員会 生涯学習部長 五十嵐 和也

狭山市学校支援ボランティアセンターの皆様には、平成16年の活動開始から長きにわたり、児童・生徒の学習支援をはじめ、課外活動・環境整備・安全見守りにご尽力を賜り感謝申し上げます。

さて、少子高齢社会の到来、グローバル化やデジタル化の進展など、社会が大きく転換する中で、子供達には、社会の変化に柔軟に対応し自ら課題を解決する力や、多様な価値観を持つ人々と協働しながら、新たな価値を創造する力が求められています。

また、家族形態の変化、価値観やライフスタイルの多様化により、家庭を取り巻く環境が大きく変化する中であって、学校・家庭・地域が連携・協働し、地域社会との様々な関わりを通じて、子供達が安心して活動できる居場所づくりや、地域全体で子供達を育む学校づくりを推進していく必要があります。

教育委員会といたしまして

は、令和3年度から5年間を計画期間とする「第3次狭山市教育振興基本計画」が4年目を迎え、様々な取り組みの総仕上げの時期となっていることから、

現計画の成果及び課題を的確に把握し、新たな時代を生きる子供達に必要な力の育成を一層推進してまいりたいと考えております。そして、本市教育の基本理念であります「夢をかなえ 人をつくる さやまの教育」の実現に向けて、関係各位と連携・協働しながら各種施策に取り組んでまいりますので、未来を担う「さやまっ子」の健やかな成長のために、引き続き、ご支援・ご協力くださいますようお願い申し上げます。



SSVCと連携した地域づくりに向けて

SSVC 事務局長 山田 恵一

今年度は、奥富小学校、堀兼小学校、入間川小学校と柏原小学校の4校が創立150年の節目を迎えました。この他に水富小学校は尋常小学校に改称された明治25年を創立年としていますが、その前身の学校は明治4年に設立されていますし、今は無い入間小学校も創立は150年前になります。このように狭山市は昔から教育熱心な地域であったことが分かりますし「学校応援団」の活動が始まるずっと前から、地域の人が通学路の見守りや学校の環境整備活動などに活発に参加していた、と聞いています。コロナ禍もあって大きく様変わりしましたが、私が子供の頃の小学校の運動会は、地域を挙げての大イベントでした。

昨年度から地域学校協働活動(SSVC)が動き始めていますが、学校運営協議会の活動の様子には学校

区毎の差が大きいと感じています。私たちSSVCの活動は生涯学習の一環として市内全域を対象として始まっていますが、学校がこれからの地域づくりの核となるためには、地域が主体性を持って自分たちの学校をどうしたいのか、を発信することが大切です。学校の教育も「主体的・対話的で深い学び」を重視したやり方になっていますので、小中学生が主体性を持って地域での活動に参画してくれれば、子どもたちの貴重な体験になるだけでなく、地域の高齢化による担い手不足への対応としても有効だと思います。PTAや地域子ども教室の活動などとも連携しながら、SSVCの持つ狭山市全域をカバーする人材バンクを活かして、地域毎の活動に積極的に参画して行きましょう。

学校支援活動のキーマンである CN の重要性 ⑦

～～今までを振り返り、エピソードや今後の展望などシリーズで掲載中～ 前 SSVC センター長 諸井 寿夫

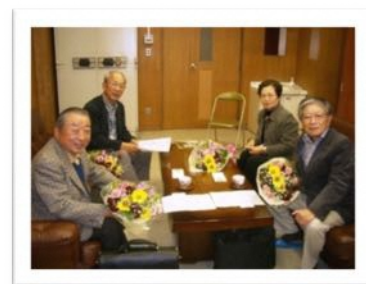
「天は二物を与えず」と言いますが、天は SSVC の人材に対して、大盤振舞いをしたようです。

特に CN は、抜きんでた無償のボランティア精神、物事に対する情熱と幅広い交友関係の持ち主です。この CN の役割は、学校や先生方のニーズと多忙な支援員との調整を頂くとても大切な役割です。

学校別の支援実績を比較すると、大きな温度差があります。（この学校別に並べたグラフなどの公表は避けています）この要因の一つが学校の支援ニーズと CN の対応にもありますが、学校と支援者との調整役として、少し外交的素養・柔軟性も必要ですが苦労も多く大変です。そこで、負荷削減のために CN を複数制対応とか、IT 技術の活用も推進中です。しかし、この CN の人選は、学校支援（SSVC）運営の大きなポイントだと思います。

ある時期、私も中学校の CN を 1 年間程担当しましたが、突発的な要請も多々ありました。県の教育委員会の研究会テーマの一環として「**学校支援の視察**」が予定され、多くの教科支援の要請であり、通常の英語、数学などの教科のほかに、パソコン、国際理解、体育と多方面でした。理科室で白衣を着て、アルコールランプの扱い方指導をしている支援員を見て、「先生より先生らしい」と言われたこと、それもそのはず

この支援員は、現役時代には高校理科の専任教師でした。また音楽室では、市民合唱団の団長がピアノの横でご指導する場面も様になっていました。



生徒代表よりの花束と校長室で

また突然の要請でしたが、「ふれあい講演会」と題し進路指導、キャリア教育の一環として講演の依頼があり、人選が難題でしたが 4 名を選定「自動車製造、金融財務、家電流通、保健衛生」と職業経験を題材に中学校体育館壇上より全校生徒に講演、生徒代表者のお礼の言葉と花束を頂きましたが、過日、生徒たちの感想文を読ませてもらう機会がありましたが自分たちの将来を視野に真剣に聴いて頂いたようでとても有意義でした。

学校支援は、CN の役割がとても重要で、学校、支援員との信頼関係、日頃のコミュニケーションがとても大事、今後「コミュニティースクール」の進展に伴い、地域の幅広い世代の方々との連携も更に大切です。

（次号予定

全国的にもまだ珍しい学校支援活動を掘り起こした由来を探る ⑧）

教科別支援者研修・懇談会を開催しました

人材バンクグループ 有田 茂

教科別研修会・懇談会を元気プラザ大会議室で「学習支援員養成セミナー」との共同で 11 月 11 日（月）13：30～16：10 に開催しました。今年度は「英語」で「小学校英語と中学校英語で学ぶ学習の内容」を狭山市教育センター坂木所長のご協力を頂き、狭山市教育指導課の上村指導主事に「小中学校で学ぶ英語」と題して講演をして頂きました。

参加者は、英語支援者研修・懇談会 22 名、学習支援員セミナー 13 名、計 35 名でした。

内容は、初めにウォーミングアップを行い、講演骨子の紹介があり、学習指導要領から英語の目標についての説明のなかで、「文化的背景を理解して目的や場面に応じた表現を選ぶ能力を身に付ける」との説明がありました。続けて現在の狭山市の小中学校のレベルの

紹介があり、狭山市の中 3 で CEFR A1（英検 3 級）相当の生徒が 50% いること、加えて英語教育に関する取り組みの紹介として、小学校へ ALT・英語活動支援員や英語専科の先生を配置したり、中学生を対象に夏休みや冬休みに集中講座を設けていたり、中学 3 年生には、公費で英検を実施したりして多岐にわたる支援に取り組んでいること。また学校での授業での取り組みでは、英語でも「主体的、対話的で深い学び」それに加えて「見方・考え方」を加えた取り組みがなされる、学びの実感が持てるように取り組んでいることなどの多くの参考になるお話を頂きました。講演の後、短い時間となりましたが参加した皆様からのご意見や疑問などで充実した懇談会となりました。

校長先生 こんにちは 35

土の教育としての奥富教育

狹山市立奥富小学校 校長 工藤 泰輔

本校は明治22年「奥富村公立尋常小学校奥富学校」として創立し、今年度開校150年目を迎えた伝統ある学校です。周囲にはロッテなどの大きな工場がありますが、一步奥富の地に入ると、広大な田んぼに囲まれ、四季折々の田んぼの美しい景色を五感で楽しみながら児童は毎日登下校をしています。また校庭からは朝は澄んだ青空に映える富士山や夕方は真っ赤な夕焼けに臨む富士山が年間通して見られる学校です。さらにかかしまつりや甘酒まつりなど子供たちが参加する伝統的な地域のお祭りもあり、地域と学校のつながりがとても深い学校です。本校の古い資料の中に「土の教育としての奥富教育」という言葉が残っています。これは【作物の種子の特色を伸ばしその適性を研究し基盤とする土地を調査し自然のリズムの中に努力

と誠心をほどこして初めて良い実りが得られる】すなわち、【教育のあり方も児童たち一人一人の生命力に根底をおき、愛と教育力と郷土の力によって伸ばされる姿でなければならない】ということであり自然との関わりが深く、地域に根ざした学校であることがわかります。現在も本校には大きな畑があり、地域の農家の方と一緒に春にじゃがいも、秋に大根を植え収穫し家庭に持ち帰っています。また田んぼを中心とした農業体験も行い、多くの地域の方と一緒に田植えから稲刈り、しめ縄作りを行い、年間通して全校の児童が土をさわり、種を蒔き、水をあげて収穫し食すという土の教育を地域の方と行っています。今後はSSVCの皆様とも共に教育活動を行っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



笹井小マーチングバンド支援に参加して

マーチングバンドは生徒にとって難しい課題ですが、運動会でやり終えたときの達成感は何ものにもかえられません。

新学期に入り教頭先生に、マーチングバンドの支援を依頼されました。生徒たちは、トランペット・ユーフォニウム・トロンボーンなどのおとなでも難しい楽器も演奏します。また、いろいろな楽器を演奏しながら校庭を行進します。演奏や行進を指導する先生方も大変です。私たちに期待されるのは、その場において生徒を励ましてほしいということでした。また、いろいろな雑用があり、そのお手伝いが少しでもできればと思いお引き受けしました。

マーチングバンドは、狹山市各地の小学校でも行われていましたが、今では笹井小のみで行われているとのことでした。完璧なものを臨むのは、無理があるかもしれませんが、6年間の集大成としてマーチングバンドを完成させるのが学校の使命でした。

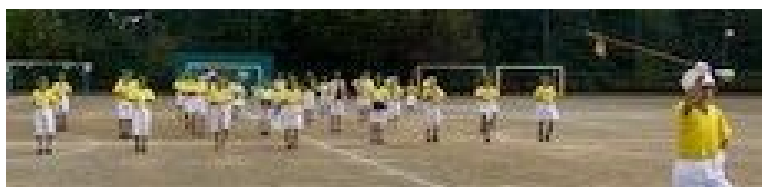
練習は、週2回の総合学習の時間に行われました。5月に入り、笹井小校歌のパート練習がはじまりました。私は、20人くらいのトランペット・ホルネット演奏の生徒たちが練習する教室を見守ることになりま

笹井小コーディネーター 古畑 晶

した。楽器は自己管理で、自分で手入れをするのですが、時々不具合が生じ見てあげなければなりません。はじめは、音を出すのが大変でした。なかなかいい音が出ません。やっと音が出るようになって、高い音を出すのがまた一苦労です。それでも、いい音が出たときの生徒たちは本当に嬉しそうでした。

二学期に入り演奏ができるようになると、体育館で他の楽器と合わせる合奏がはじまりました。それと同時に、行進の練習もはじまりました。演奏しながら、左右前後、斜めに動き、すれ違ったり、反転したり、いろいろなパフォーマンスを行うのです。そのためには、みんなが心をついに合わせ、演奏と行進を造りあげていくのです。

運動会当日は良い天気にも恵まれ、凛々しく演奏する6年生の晴れ姿に感動しました。すべてをやり終えた生徒たちの顔には、喜びが満ちあふれていました。



南小学校の支援紹介

こんにちは、南小学校です。南小学校は所沢市と入間市に隣接し、西武新宿線入曽駅から徒歩12分の畑に囲まれた、空気の美味しい環境に囲まれた素敵な学校です。学校の規模は校庭の広さ、児童数の多さとも狭山市の中でも上位に位置します。

信頼感のある山本校長のもと、明るく優しい林教頭を中心に総勢52名ほどの教職員が499名の児童を見守っています。尚コロナ禍であった昨年までの数年、停滞気味であった学校の支援活動を、今年度は学校側とコーディネーターが綿密に協議し、計画を立てることで、必要な時に必要な支援ができる体制が整っています。

南小学校コーディネーター 菅之屋 一郎

4月からは早速中国籍の児童（4年生女子）に、専任の支援者（若干言葉の壁はあるが）をつけていくらか成果が出始めていそう。

7月にはサマースクールを支援、10名の支援者で対応。またコロナ禍以前のベテラン支援者に加えて新しく新人（男女）の支援者も増え、10月に入って支援活動も軌道に乗り2年生の九九暗唱支援は1クラス2名×3クラス（合計6名）。4年生、5年生は1クラス2名×3クラス（合計6名）の算数支援と活動が順調に進んで来ました。今後も南小職員と児童、SSVCのスタッフが一体となってさらに飛躍していきたいと考えています。

狭山台小「稲刈り体験教室」支援

話題の“令和の米騒動”には「新米」が待たれる！と言われる中、9月24日5年生の稲刈り体験教室を実施。猛暑を心配したが、当日は“降らず照らず”の稲刈り日和でした。

6月に自分達が植えた「稲」が成長、立派な稲穂に実り、入間川の旧家・斉藤さんの指導を受け“稲刈り鎌”で一株毎に刈取りました……チョット時間は掛かりましたがボランティアのアドバイスも受け“コツ”を掴むと怪我することなく上手に刈れて自信の顔に！

その後、コンバインの所に運び、斉藤さんに渡し“脱穀工程”を体験。最後は脱穀した“粳”をトラックに移

狭山台小学校コーディネーター 大竹 五郎

すところを見て終了です。学校から往復歩いての教室でしたが、SSVCから8人と保護者からの支援者も多く“無事に終了”来年予定の「感謝祭」が楽しみです。



SSVC 活動報告

2024年度現在までの支援実績 情報集約グループ

中学校では、家庭学習ノートの確認のほか、対面での支援（教室での数学や調理実習、別室登校の生徒の見守りなど）を行いました。特に、別室登校の生徒の見守りは難しく、支援者は先生と相談しながら、生徒が良い方向へ進めるよう支援しています。

小学校では、児童と一緒に活動する支援が多くなり、通常授業の算数、理科、家庭科（ミシン、調理実習）などに加えて、お茶摘み、田植え・稲刈り・脱穀、しめ縄づくりなどの支援を行いました。

中でも、田植え前の田んぼで泥水遊びをする児童の支援は楽しく、大変だったようです。

詳細は右の2次元バーコードで検索してください。

学習支援員養成セミナー終了しました。

学校現場に入り学習支援をするボランティアとしては、教育に対する考え方が、今と昔では違っていること、互いの違いを認める多様性の課題などを、改めて学習しなければならないということで、学習支援員セミナー12回を開催しました。16名の参加をいただき、無事終了することができました。

詳細は次の2次元バーコードで検索してください。



支援実績報告



セミナー報告



SSVC HP